

令和 3 年度

美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

令和3年度

美術館教育普及報告書

目次

- 2 はじめに
- 3 本年度の取り組み
- 4 キュレータートーク・学芸員講座①
- 5 キュレータートーク・学芸員講座②
- 6 アーティスト・ギャラリートーク・オンライン対談①
- 7 アーティスト・ギャラリートーク・オンライン対談②
- 8 ミュージアムツアー
- 9 学校支援プログラム
- 10 学校団体鑑賞プログラム
- 11 児童・生徒の声
- 12 教職員講座
- 13 職場体験・移動展
- 14 ボランティア活動
- 15 「ニシムイ美術村」出前講座
- 16 複製画使用報告
- 17 慰霊の日関連催事
- 18 学芸員実習①
- 19 学芸員実習②（実習生レポートより）
- 20 OKINAWA アートワークショップ 2021 ①
- 21 OKINAWA アートワークショップ 2021 ②
- 22 OKINAWA アートワークショップ 2021 ③
- 23 こどもフェスタ秋①
- 24 こどもフェスタ秋②
- 25 こどもフェスタ秋③
- 26 アートコンクール①
- 27 アートコンクール②（審査講評）
- 28 おきみゆーシネマラボ
- 29 展覧会関連催事 美術館コレクション展
- 30 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ（写真）
石川文洋とベトナム戦争
- 31 展覧会関連催事 川平恵造展
- 32 展覧会関連催事 REFLECTIONS –時代を見る眼
- 33 展覧会関連催事 沖縄美術の流れ（前期）（後期）
- 34 展覧会関連催事 石川真生展①
- 35 展覧会関連催事 石川真生展②
- 36 展覧会関連催事 琉球の横顔①
- 37 展覧会関連催事 琉球の横顔②
- 38 実施統計
- 39 実施統計
- 40 実施統計
- 41 実施統計
- 42 さいごに・奥付

[はじめに]

沖縄県立博物館・美術館は、「おきみゅー」という愛称で親しまれ、おかげさまで開館14年目を迎えました。今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、入館者数は12万人と前年度をさらに下まわりました。この1年、緊急事態宣言で臨時休館を余儀なくされた時期もありましたが、開館を待ちわびてくださる多くの方々の声に励まされました。先の見通しが厳しい状況が続く中、来館してくださった皆様には心より感謝申し上げます。

さて、美術館の主な活動内容には「資料収集」・「保存管理」・「調査研究」・「展示公開」・「教育普及」の5つの柱があります。教育普及活動は、美術館が文化・芸術の発信拠点として、交流やつながりを大切にしながら、誰もが美術を通して新たな価値に出会える場を創出し、より多くの皆様が美術に親しみ、楽しんで頂くことを目的としております。

本報告書は、令和3年度に実施した美術館の企画展・コレクション展関連催事、学校団体鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ミュージアムツアーなど、幅広い教育普及事業の活動内容をまとめたものです。

常に新しいプログラムに取り組み、美術館と外部団体・個人とこれまでにない新たな結びつきを生み出し、新規来館者の開拓と新たな価値を美術館から発信することができたと考えております。

本報告書が、これまで以上に県立博物館・美術館を活用する契機となりますよう期待するとともに、教育普及活動に対するご理解への一助になれば幸いです。そして、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和4年3月

沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

[本年度の取り組み]

本年度の教育普及事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で休館期間が長期に及んだため、従来から取り組んでいる、当館がバスを手配し美術館に招待する学校団体プログラム「美術館へ行く」や、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」を残念ながら実施することができませんでした。

しかし、コロナ禍における美術館の役割を模索する中、5回目の開催となった児童・生徒を対象とした「アートコンクール」では、1,638点もの応募があり、応募者数に関して、これまでの最高記録を更新しました。このことは、外に出かけることのできない自粛生活、おうち時間の充実、自宅でアート制作に取り組むなど、子ども達のおかれた環境の変化による影響も大きいのではないかと考えます。

2020年から、リモート授業を実施するなど学校の授業形態は大きく変化しています。今年度は、コロナ感染者数が減り、落ち着いた11月・12月に、小学校・高校の団体見学を受け入れることができましたが、当館も今後は、美術館と学校を繋げるための取り組みを今一度見直し、時代や情勢の変化に応じた新たなプログラムを立ち上げるなど、創意工夫しながら内容の充実を図りたいと考えています。

夏休みに行われる予定だった「こどもフェスタ」は秋に、そして、2018年から継続している地元の素材・題材にこだわった、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWA アートワークショップ」も、それぞれ当初の予定とは時期をずらしての実施となりました。講師の方々はもちろんのこと、受講者の皆様にも感染対策の徹底にご協力頂きながらの開催となりましたが、どのワークショップも大変好評で、楽しみながら制作している参加者の皆様の笑顔が印象的でした。今後も、皆様に喜んで頂けるような、新たなワークショップの開発に取り組みたいと思います。

さて、昨年完成した複製画は、今年度、首里中・伊良波中での鑑賞の授業で活用され、那覇市立壺屋焼物博物館では「うちなー赤瓦ものがたり」という展示会で、大嶺政寛の《八重山風景》を展示して頂きました。このことは、当館の収蔵作品の紹介とともに、沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となりました。また、公民館で活動するグループからの要望で行った「ニシムイ美術村」についての出前授業は、生涯学習に取り組む大人の皆様との新たな出会いの場となりました。

コレクション展では「山田寛展」「子どもの情景」「石川文洋とベトナム戦争」「川平恵造展」「REFLECTIONS」「沖縄美術の流れ」を開催し、たくさんの関連催事を通して作品理解を深めるための情報を提供しました。

企画展では「石川真生展」「琉球の横顔展」を開催し、コロナ禍にも関わらず県内外から多くの方々に来館して頂き、オンラインによる催事の開催など新たな取り組みも実施することができました。

以上のように、今年度も様々な取り組みを通して、多くの個人・団体と連携し、教育普及事業を実施することができました。ご協力くださった皆様に感謝申し上げますとともに、1日でも早く平穏な日々が戻りますよう心よりお祈りいたします。

沖縄県立博物館・美術館

美術館教育普及担当 主任学芸員 玉城早苗

キュレータートーク・学芸員講座①

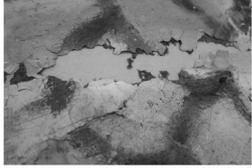
当美術館では、展覧会担当学芸員が、普段の仕事から知り得た成果を発表するために、学芸員講座を開催している。

内容は、学芸員が企画した展覧会の見どころ紹介や、修復に関することなどさまざまだが、学芸員にとって専門家としての責任を再確認し、来館者が知りたいこと、求めているものに目を向ける大切な機会である。

また、キュレータートークでは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の成果を発表している。鑑賞者が、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、鑑賞者に展覧会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後へ向けての情報収集となる。

美術館学芸員講座 + 沖縄美術の流れ キュレータートーク

美術品の保存修復について
～保存修復の現場から～



作品を保存・修復していくことは、美術品の大きな役割の一つです。沖縄では、戦争による被害や高温多湿の気候風土の影響により、作品の傷みが激しい場合があります。今回の学芸員講座では、現在美術館コレクションで展示されている油絵の修復作業について説明し、さらに当館の保存修復室で使用する材料・機材などについても解説します。

講師 梶原正史 (保存修復担当)

日時 6月5日(土) 14:00～15:30 (開場 13:30)

場所 美術館講座室

定員 30名

参加方法 事前申込 (電話・来館にて受付)
(講座の後に修復室とコレクションギャラリーをご案内します)

※参加無料。ただし、習字用紙の美術館コレクション受付カードが必要です。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、また収容率一割減とする場合があります。

お問い合わせ先
〒900-0006 沖縄県那覇市糸数1丁目1-1 No. 008 941-8100

※参加費なし、会場内での撮影はご遠慮ください。
※入場券・チケットは発行しません。
※会場での撮影も実施していません。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、収容率一割減とする場合があります。

公益財団法人 沖縄県立美術館

回	期 日	曜日	講座名	担当
1	6月5日	土	美術館学芸員講座 「美術品の保存修復について～保存修復の現場から～」 (新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う休館期間中の為中止)	梶原正史
2	10月23日	土	石川文洋とベトナム戦争・キュレータートーク (映像上映)	亀海史明
3	11月6日	土	石川文洋とベトナム戦争・キュレータートーク (講話)	亀海史明
4	11月20日	土	石川文洋とベトナム戦争・キュレータートーク (映像上映+講話)	亀海史明
5	1月8日	土	琉球の横顔―描かれた「私」からの出発・キュレータートーク (展示解説)	豊見山 愛
6	3月5日	土	「REFLECTIONS-時代を見る眼-」学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり
7	3月12日	土	美術館学芸員講座「展覧会とアーカイブ」-美術館の現場から-	亀海史明



●豊見山 愛 学芸員



●亀海史明 学芸員

キュレータートーク・学芸員講座②



●亀海史明 学芸員



●豊見山 愛 学芸員

沖縄県立博物館・美術館 美術館コレクション展
REFLECTIONS 時代を見る眼 関連催事
学芸員講座 + キュレータートーク

2022.
3.5 ±
14:00~15:00
(受付 13:30)

大城さゆり (講師) 学芸員
沖縄県立博物館・美術館
コレクションギャラリー

2022 19 (土) 4月 1日
2022 19 (土) 4月 2日

941-8200
沖縄県博物館おもろまち3-1-1

多くの人の生活を支えた新型コロナに関することも、10年、20年と時が過ぎると、「沖縄戦」や日本人の「愛国」と同じように、理解していない世代が少なくなく続くことでしょうか。個人が生活の中でSNSなどから得た情報に頼りながら「時代」を見つけた作品からなら「時代」を見つけた作品からなら感じられることあるかもしれません。

コレクション展「REFLECTIONS-時代を見る眼」では、「戦場(沖縄戦とベトナム戦争)」「国家」そして「戦場」のテーマに分け、当館がコレクションする沖縄、日本、アジアの近代美術作品から、それぞれの置かれた「時代」を見つけた作品を紹介しています。

本講座では、展覧会の内容や作品について、担当学芸員が解説いたします。

※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一部展示内容が変更される場合があります。

※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一部展示内容が変更される場合があります。

※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一部展示内容が変更される場合があります。

※ 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、一部展示内容が変更される場合があります。

●大城さゆり学芸員 (チラシ)

【学芸員の声】

当美術館では、文化芸術に関する県民の方々の関心にこたえるべく、定期的に講座を開催している。講座・講演会の内容は、収蔵作品や常設展示・企画展示等に関連したテーマを設けて実施している。

昨年度に引き続き、企画展「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」と、本年度は「琉球の横顔 - 描かれた「私」からの出発」が開催されたが、両企画展の付帯催事では、各担当が催事を企画し、現在進行形で制作を続けているアーティストの講話やシンポジウムを通して、それぞれのアーティストの制作活動を深掘りすることができた。当館のコレクション展では「石川文洋とベトナム戦争」、「川平恵造展」REFLECTIONS」など企画性の高い展示とともに、通年で沖縄の美術の系譜を紹介する「沖縄美術の流れ」を開催し、各担当が講座を行った。自身が担当した「石川真生展」、および「石川文洋とベトナム戦争」では、有識者の方との事前調整に加え、作家に関連する写真史などの解説資料を用意し、作品の背景を紹介することで、来館者の作品に対する関心を高めるとともに、自身もまた、同時代の写真研究に関する知見を深めることができた。(亀海史明)

アーティスト・ギャラリートーク・オンライン対談①

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関する思いを直接伺ったり、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて解説頂くことで、新たな気付きやより深い理解に繋がっていくといえる。



●川平恵造 氏 × 豊見山 愛 学芸員



【川平恵造展】

私は沖縄県立芸術大学で実技を学んだ後、縁あって美術館施設に 30 年余り関わっている。学芸員として、数えきれないほどの展覧会／イベントを企画させていただいたが、特にアーティストの生の声が聴けるトークは、作品を理解する上で重要である。また、同じ時代を生きる人間として、生きた歴史に触れる機会でもある。

川平恵造展は、オープンして 10 日後に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休館となり、担当としては残念な思いであった。ホームページでの公開と 1 階エントランスでの映像上映を目的に、展示会場でインタビュー映像を撮ることとなり、川平氏も快諾し、打ち合わせもそこそこに私が聞き手となって、絵を描き始めた動機と二つのシリーズ《Now》と《夏》についてお聞きした。川平氏の目を通して見る沖縄の風景は、社会の変化と相関的なつながりを持ち、今後何世紀も残るであろうコレクションが、時代の証言者としての役割を持つと確信を得た。(豊見山 愛)



●石川真生 氏



●栗国久直 氏

アーティスト・ギャラリートーク・オンライン対談②

【琉球の横顔展（オンライン対談）】

企画展出品アーティストの魅力を伝えることを目的として、各アーティストがゲストを招き、約45分間のオンライン対談を実施した。出品アーティストの遠藤 薫氏に聞き手が美術批評家の沢山 遼氏という組み合わせから始まり、仁添まりな氏と平川信幸氏（沖縄県教育庁文化財課主任専門員）、石垣克子氏と土屋誠一氏（美術批評家、沖縄県立芸術大学准教授）、喜屋武千恵氏と賀数仁然氏（琉球歴史文化研究所クボウグランデ）、寺田健人氏と高田冬彦氏（アーティスト）、胡宮ゆきな氏と居原田 遥氏（インデペンデント・キュレーター）の貴重なトークがホームページ上で公開された。また、山川さやか氏には豊見山 愛、泉川のはな氏には大城さゆりと、当館学芸員も聞き手となった。

対談のテーマは、出品作品を通してアーティストの魅力を紹介するもので、展示会場の風景や出品作品の画像を交えて、魅力あるコンテンツに仕上がった。なお、ネットでの公開期間の延長を要望する声に応え、現在も当館 Web サイトで視聴が可能となっており、沖縄美術についての興味を喚起する機会となった。（豊見山 愛）



●石垣克子 氏×土屋誠一 氏



●喜屋武千恵 氏× 賀数仁然 氏



●寺田健人 氏×高田冬彦 氏



●胡宮ゆきな 氏×居原田 遥 氏

ミュージアムツアー

普段見ることのできない美術館の裏側の案内と、コレクションギャラリーの鑑賞を取り入れたツアー。各担当の学芸員が、美術館の役割や学芸員の仕事についても解説する。特に修復室で行う実際の作業に関する説明は、参加者の多くの関心を引いている。

- ① 実施：年5回 土曜日 10：30～12：00
- ② 内容：美術館の裏側を紹介し、コレクションギャラリーを案内する。
- ③ 定員：12人



●豊見山 愛 学芸員（調査研究-調べる-）



●玉城早苗 学芸員（教育普及-伝える-）

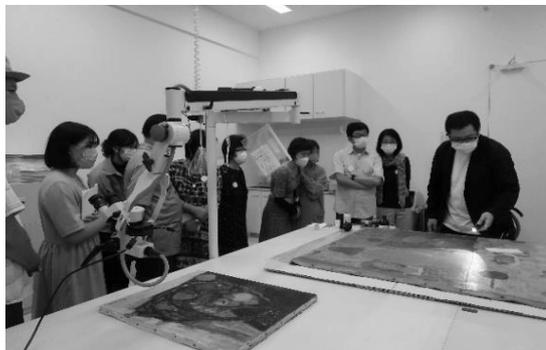
【作品を伝えていくために】

亜熱帯に属する沖縄では、気候風土など地域の特性に合わせて美術品の保存を考えなくてはならない。しかし、沖縄での美術品の保存に悪影響をもたらしたのは自然環境だけではなく、戦争による被害も大きい。

普段なかなか目に触れる機会が少ない、保存修復に関する機材や作業などについて、学芸員講座で説明をすることがあるが、難解すぎてわからないという声もある。その点ミュージアムツアーでは実際に現場を見ながら少人数で回ることができるので、参加者からの質問も受けやすく、その場で答えることもできるのが魅力だ。最近熱心に質問をしてくれる学生の参加者も増えていて、これから沖縄美術の保存修復を担う人材や、学芸員に興味を持つ方が出てきた時に、このミュージアムツアーが何かの役に立てば幸いである。（梶原正史）



●梶原正史 学芸員(保存修復-まもる-)



学校支援プログラム

沖縄県立美術館 学校支援プログラム



※本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止による休館期間の長期化により、学校支援プログラムの実施が困難であった。次年度以降は、児童生徒をバスで送迎し鑑賞を行うバス招聘事業「美術館へ行こう」を廃止し、鑑賞支援プログラムの内容を見直す予定。

学校支援プログラム内容

1. 鑑賞支援プログラム（小・中・高・特別支援学校）：〔美術館で〕
2. 美術館出前講座（レクチャー+チームティーチング）：〔学校へ〕
3. 教育普及キット貸し出し：〔学校へ〕 沖縄遊具体験：〔美術館で〕
4. 博・美夏休み教員向け講座：〔美術館で〕
5. 小・中職場体験や研究会の研修受け入れ：〔美術館で〕

1. 鑑賞支援プログラム

- 学校・学級等で申し込んだ団体に、ボランティアによる「鑑賞ツアー」を行う。
- 社会科・総合的学習（平和教育等）の位置づけで、作品や展示資料を当時を知る手がかりの素材として活用する。
※学校の要望等に応えながら学校と美術館で授業を作り上げていきましょう。



●鑑賞プログラムの細かい流れについては、学校側との調整になります。
※申込は、当館のホームページよりお願いします。<https://okimu.jp>



●詳しいお問い合わせはこちら
098-851-5402（美術館直通）
098-941-3730（FAX）
m8-016@museums.pref.okinawa.jp

担当：玉城早苗
（美術館教育普及担当主任学芸員）

2. 美術館出前講座（授業レクチャー）

- 作品を複写したパネル（ティーチャーズ・キット）での鑑賞授業のレクチャーや、授業の支援を行う。

3. 教育普及キット貸し出し

- 作品を複写したパネル（ティーチャーズ・キット）やアートカード（美術館収蔵作品をもとにした60点のカード）を貸し出し、学校での授業に役立てる。→今年度、宮森小へ貸し出し

4. 博・美教員向け講座

- 美術館連携の授業の在り方や博物館・美術館の活用の方法等の学習会を行い情報提供を行う。

5. 職場体験や研究会の研修の受け入れ

- 収蔵作品の鑑賞や当館の教育普及プログラムの紹介、バックヤードの見学などを行う。



学校団体鑑賞プログラム

「作品をどうみたらよいかわからない」作品に対してよく聞かれる言葉である。美術館では、その問いに答える様々なプログラムがある。鑑賞サポートシートなどの図版や解説文が印刷されたセットや、図録等を用いて鑑賞者が自分のペースで展示を見るセルフツアー・学芸員やボランティアのサポートによるドールツアーがある。一人で見ただけでは見えてこなかったことが、サポートシートや対話を通すことによって、より深い鑑賞体験につながっていく。児童や生徒が美術に関する知識・理解を補完していく目的として、学校・地域と美術館が連携して行う鑑賞プログラムである。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で休館期間が長期化し、ボランティアによるサポートを行うことができなかった。団体見学を希望する学校には、主に美術館の役割についての講話や、バックヤード見学を教育普及担当が行ったり、自由鑑賞という内容での対応となったが、学校側からは大好評であった。

	学校名	来館日	参加(名)
1	沖縄県立首里高等学校	11月30日(火)	7
2	南城市立玉城小学校	12月1日(水)	75
3	渡嘉敷村立阿波連小学校	12月9日(木)	6
4	沖縄県立浦添工業高等学校・デザイン科	12月17日(金)	78
5	那覇市立宇栄原小学校	12月23日(木)	115



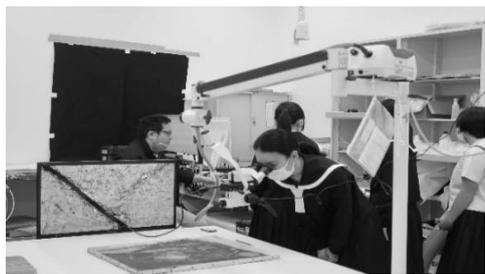
●美術館について講話



●鑑賞の様子



●バックヤード見学の様子



児童・生徒の声

●南城市立玉城小学校3年

美術館・教育普及
沖縄県立博物館・美術館

美術館の作品を鑑賞しよう

★振り返りシート★

筆 箱 名前

- ①日時：()月()日()時()分
②あなたが一番好きな作品、気に入った作品はどの作品ですか？
作品名と鑑んだ理由を書いて下さい。

*お題 夏のシリーズ

*鑑た絵画
たくさんの色が使われてて
キレイだから。

③鑑賞後の感想、感じたこと、思ったことを書きましょう。

わたしは夏のシリーズを見て赤色や青という
な色が使われていたので、すごくキレイで
ステキだなって思いました。夜も小さく
書かれていることに気がきました。
シッターが2人がかかっている理由は、
ホコリや虫が入りこまないようにするためと
いうことがわかりました。

今日の授業は
とても楽しかった 楽しかった むずかしかった

沖縄県立博物館・美術館

●南城市立玉城小学校3年

県立はく物館美じゅつ館のおみなへ
私が一番キレイだと思った絵は「カタ
アヒ」と、「キーストン」で「カタアヒ」がキレイだと思った理由は、
色がキレイであやめだから「カタアヒ」がキレイだと思いました。
「キーストン」がキレイだと思った理由は、明るくて
いいイメージだったので「キーストン」がキレイだ
なと思いました。こわかったのは、ヤマトせんそうの
しんを見たとときです。くちなすたちのしん
を見てせんそうはおそろしいのだとすごく感じ
ました。あと、むかしっか、ていたおねやオスターを
見て、むかしこんなものをつかっていたんだなと思いま
した。

楽しかった

3年 組
より

●那覇市立宇栄原小学校4年

4年 組 名前



博物館を見学して

博物館は最初に見た自然のコーナーの場所が一番いい場所にのりました。実物そっくりでびっくりしたからです。



美術館を見学して

美術館を見学して、美術館はいろいろな作品があったとてもおもしろかったです。立体的な物や、カラフルでおもしろい絵がたくさんありました。

●沖縄県立浦添工業高等学校1年

・美術館は、作品を展示するだけでなく、作品を大切に保管する場所でもあることがわかりました。「ニシムイ美術村」のことを初めて知り、美術村で活動していた人たちのお陰で、沖縄の美術が発展したことがわかりました。初めてバックヤードの見学を体験して、普段見ている「表」ではなく「裏」を見ることはワクワクしました。作品一つ一つを大切に保管することは、とても大変なことだと思います。

・「ニシムイ」や「琉球の横顔展」を見ることができ、沖縄の美術の歴史を学ぶこともできてよかったです。美術館は、ただ絵を展示しているだけでなく24時間警備してくれている警備員さんや絵を修復している学芸員さんがいたり、いろいろな人がいることで美術館を運営することができているんだなと思いました。特に「ニシムイ」の話は、自分の地元首里にあるものだったので、印象深く、地元の歴史を学べて良かったです。

・美術館のバックヤードを見学し、美術館は絵を飾っているところですが、ただそれだけではないことに気づかされました。気温や湿度に気を使い、いろいろな工夫がされていました。「石川文洋とベトナム戦争」では、戦争の様子や目をそむけなくなるシーンもあったけど「これが戦争なんだ、やったらいけない」と、多くを知りました。

教職員講座

図工・美術における授業の指導力向上や、美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での美術教育に役立ててもらうことを目的とし、沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教諭、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、図画工作・美術に関する研修を当館の施設において定期的に開催している。

今年度は、第58回沖縄県造形教育研究大会（ワークショップ・授業改善研修会）の会場として活用される予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言延期の為、残念ながら中止となり、沖縄県造形教育連盟会員のみの参加（午前：中学校/午後：小学校）及び、内容については連盟のWebサイト等で配信することとなった。

※予定していた内容は下記の通り

●第58回沖縄県造形教育研究大会（ワークショップ・授業改善研修会）※中止

- 【日 時】 8月4日（水）
- 【会 場】 沖縄県立博物館・美術館（美術館講座室、博物館実習室）
- 【参加者】 小学校・中学校・画工美術関係者
- 【後 援】 沖縄県教育委員会・那覇市教育委員会・沖縄県立博物館・美術館
- 【協 賛】 ペンてる株式会社
- 【内 容】 ①ワークショップ ②実践研究発表

	小学校の部	中学校の部
8 月 4 日 (水)	10:00～12:00 ワークショップ 「絵具指導について」 ※実技講座 用具の使い方、混色の仕方等	授業改善研修会Ⅰ（実践事例発表） ①地域とつながるデザイン ②身近なデザインの鑑賞
	13:00～15:00 ワークショップ 「絵具指導について」 ※実技講座 用具の使い方、混色の仕方等	授業改善研修会Ⅱ（提案・講義） ③対話を生む授業づくり ④美術科における指導と評価の一体化



●研修の様子

職場体験・移動展

美術館 職場体験

職場体験とは、生徒が一般企業などで働く人たちとコミュニケーションを取りながら、実際に仕事を体験する学習活動である。当館では、団体鑑賞プログラムの対応、資料整理など学芸員のサポート業務と、展覧会会場の交流員やもぎり、ミュージアムショップでの接客など、来館者の対応にも挑戦するプログラムを提供している。今年度も実施に向け、県内の中学・高校と調整を進めていたが、新型コロナウイルスの影響で中止になった。



● 配送作業



● 資料整理



● 美術館概要

移動展 in 渡嘉敷島（令和4年度に延期）

移動展とは、日常的に当館へ足を運ぶことが難しい離島の方々に向けて、博物館・美術館の資料や作品を公開し、沖縄の自然、歴史、文化、芸術を味わっていただく展覧会として毎年開催している。また移動展を通して、来場者自身が生活している地域の魅力を再発見することも目的としている。

今年度は、昨年度実施出来なかった渡嘉敷島で開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で次年度に見送られた。



● 令和元年度 展示の様子 1



● 令和元年度 展示の様子 2



● 令和元年度 ワークショップの様子

ボランティア活動

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと美術館関連書籍・新聞を整理する資料整理ボランティアの2つのグループに分かれ、それぞれの特技を生かし活動している。今年度も新型コロナウイルスの影響でボランティアの活動は縮小され、学校団体の対応や館外学習などは実施出来なかったが、勉強会として、企画展・コレクション展の展示解説に加え、美術館のあり方を学ぶワークショップを行い、次年度の活動に向けた準備を行った。

講座	プログラム	実施日	内容
第1回	活動説明会+勉強会	4月21日	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会、展示解説
第2回	勉強会	11月24日	展示解説、ワークショップ：美術館とは何かを考える
第3回	勉強会	2月16日	展示解説
第4回	勉強会	3月9日	バックヤードツアー



●職員紹介



●ワークショップ



●展示解説 1



●展示解説 2

「ニシムイ美術村」 出前講座

那覇市牧志駅前ほしぞら公民館にて活動している、「はまなすの会」の皆様からの依頼で「ニシムイ美術村」について出前講座を実施した。今回の講座は、生涯学習に取り組む一般の方々との新たな出会いの場となった。また今後、「ニシムイ美術村」跡地へ実際に足を運び、フィールドワークを実施する計画も考案中である。

● 出前講座

- ① 内 容 「ニシムイ美術村」について講話
- ② 場 所 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館
- ③ 日 時 令和3年11月29日(月)
15:30~17:30
- ④ 参加人数 12人



● 講座の様子

複製画使用報告

現在美術館が収蔵する各種美術品は、保存管理の面から館外持ち出しを制限しているため、収蔵品を見るには当館へ直接来館してもらうしか方法がない。しかし、美術館教育普及事業の一つとして実施している「美術館出前授業」では、当館の収蔵作品を鑑賞しながら進めるプログラムがあり、複製画が出来上がるまでは、紙に印刷した作品を使って授業を行っていた。

一昨年度より進められてきた複製画計画は、関係者間で作品選定や使用目的など、時間をかけ調整を行った上で制作し、「美術館出前授業」や「移動展」での活用が実現した。昨年度は、その第2弾として、作品3点を選定し制作にあたった。完成した複製画は、今年度、3件の貸し出しを行い、首里中・伊良波中では鑑賞の授業で活用され、那覇市立壺屋焼物博物館では「うちなー赤瓦ものがたり」という展示会で、大嶺政寛の《八重山風景》が展示され、多くの来館者が鑑賞することとなった。このことは、当館の収蔵作品の紹介とともに、沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となった。



●首里中学校での授業の様子



●那覇市立壺屋焼物博物館・展示の様子



慰霊の日関連催事

沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦について語ってくれる人が少なくなってきました。学校現場でも、年々沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。美術館では、戦争の愚かさや命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会にすることを目的としている。例年エントランスやギャラリーで読み聞かせを行っているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で催事開催が厳しい状況であったため、昨年録画した読み聞かせの映像をエントランスにおいてモニター上映する予定であった。しかし、休館期間が長期に至った為、開催することはできなかった。

【場 所】 沖縄県立博物館・美術館 1階 エントランス

【日 時】 令和3年6月15日（火）～6月27日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う休館期間中のため中止

【内 容】 博物館・美術館教育普及連携催事で、館内エントランスにTVモニターを設置し、平和関連の絵本の読み聞かせ映像の上映と、昨年に続き、沖縄県立図書館協力のもと、絵本の紹介も行う。

①平和に関する絵本の読み聞かせ映像（美術館）

②本の紹介資料（沖縄県立図書館）

【読み手】 宮城アケミ（元沖縄大学教授・沖縄県立博物館・美術館鑑賞ボランティア）

【作 品】 ①『つるちゃん』金城明美・作 ②『へいわってどんなこと?』浜田桂子・作

【対 象】 一般（参加無料）



●展示の様子

学芸員実習①

美術館では、開館3年目の2009年から実習の受け入れを行っている。例年受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を受け入れ、定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員それぞれの専門分野の講義にあっている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響により実習時期をずらし、一部内容の変更と期間を短縮し実施した。また、県内の沖縄県立芸術大学の10名を受け入れた。
 期間：2021/8/30～9/1（実施）：課題提出9/30メ切

※当初は8/10～8/24に実施する予定だったが、スケジュールを短くして実施した。

【例年の美術館学芸員実習カリキュラム】

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第1日	月	開講式、オリエンテーション、I P M	業務の考え方・博物館施設説明
第2日	火	美術館活動の概要及び施設・設備	常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究
第3日	水	共通課題研究、収集事業概要	資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ
第4日	木	共通課題研究、資料の分類	常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際
第5日	金	共通課題研究、常設展示の実際Ⅲ	調査研究概要、企画展の実際Ⅰ
第6日	月	共通課題研究、資料に関する情報処理	立体資料の取扱い実習（彫刻）
第7日	火	共通課題研究、平面資料の取扱い（油彩・水彩画）	平面資料の取扱い（版画）
第8日	水	共通課題研究、教育普及Ⅱ	平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ
第9日	木	共通課題研究、作品調査の方法	平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ
第10日	金	共通課題発表、平面資料の実習Ⅴ	実習のまとめ、閉校式



●開講式



●開講式



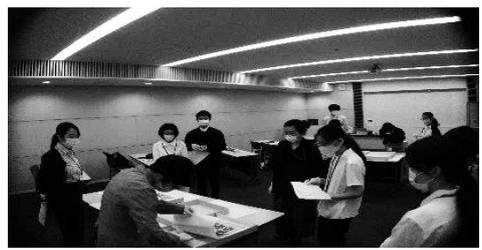
●教育普及講座



●調査研究講座



●資料収集講座



●展示公開講座

学芸員実習② (実習生レポートより)

●オリエンテーション、調査研究について

まずはじめに、スタッフ10人の紹介があり、思っていたよりも少ない人数で驚いた。学芸員5人にはそれぞれ役割があり、調査研究、資料収集、保存修復、展示公開、教育普及の5本の柱のどれが欠けても美術館は成り立たないという言葉が印象的だった。調査研究の話の中で、公的な美術館として収蔵すること、県の財産になるということの責任や重要さを初めて理解して、改めて収蔵作品のすごさを感じた。その収集のジャッジをするために大切な作家調査では、作家の年齢や体調を考慮して切羽詰まった調査が続いていることや、日本の現状として研究にあまり時間を割けないことなど、現場の生の声が聞けて学芸員という仕事の大変さの一端が伝わってきた。美術館紀要も大学図書館にあるのでぜひ読んでみたい。

また、学芸員がどのように作家を見ているのか(HPやポータルサイトなど)、制作者として自分の作品をわかってくれる信頼できる学芸員に展示をたくすなど、参考になることばかりで今後の活動に活かしたいと考える。川平恵造展では、作家との様々なエピソードが聞けて、これが作品と人をつなぐことなんだなと実感した。作家らしさに重点を置いて、作家と相談しながらギャラリートークをオンライン配信するなど、臨機応変にベストを尽くす姿勢を体感した。

●資料収集、展示公開について

現代美術も収集するという点で、デジタル作品などの形式を保存のため更新していくという話が興味深く、収蔵庫見学では、フィルムをデータに変えている実際の機材なども見せてもらえておもしろかった。その中で、ブラウン管テレビの例や、「石川真生展」での写真に保護ガラスをつけなかった話を聞いて、作品の保存と作品の意図、作家のこだわりを両立させる難しさも学芸員にはあるんだなと学べた。「石川文洋とベトナム戦争展」を見学して、農民、南ベトナム政府、アメリカ兵の三つの当事者が向かいに並んでおり、視線が交わるような配置というのが印象に残った。並びの印象や、キャプションの表現について実際に展示を見ながら聞くことができよかった。

大城さんのお話では、展覧会までにどのように動いているかがよくわかった。展示前の作品の裏面や天井上の写真は、普段見ることができない部分で、展示の苦労話や実際の学芸員の実体験が聞けてよかった。稲嶺成祚展は行ったことがあり、作品数が多いのと、壁画や賞状など幅広く作品があり見ごたえがあったのが印象に残っていて、稲嶺氏が作品をしっかりとデータベース化していたという裏話を聞いてすごいなと思った。短期間で修復した話を聞いて、展示はたくさんの方が協力しながら作られているんだなと実感した。

●教育普及について

まずは、教育普及が、美術に親しんでもらえるように様々な取り組みをしていることがわかりました。キュレータートークや学芸員による講座の他にも、学校教員に向けた講座や、学校支援プログラムなど、教育と結び付いた取り組みが多くあると感じました。

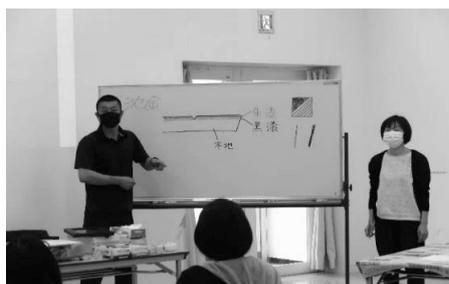
私自身、今は美術を学んでいるため、博物館・美術館に行くことは多いですが、小・中学校の頃、美術館に行くことは少なかったので、お話の中であったように、美術館と学校教育が連携するような取り組みは、とても良いと思いました。また、教育普及の中で、わかりやすい資料の作成や鑑賞のサポートなど、多くの工夫により成り立っているとわかった。小さい頃から、美術館の存在を当たり前にする中で、親しみやすいものになると感じました。また、教育普及は5つの柱の中でも特に、人と関わることが多く、出来上がっている展示や資料をどう伝えるのかという部分が人とモノをつなぐ重要な役割であると理解することができた。

OKINAWA アートワークショップ 2021 ①

当館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。2017年度より、「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを実施している。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、当初の予定とは時期をずらしての開催となったが、身近なモノでモノづくりが出来る素晴らしさや、アイデア・発想につながる考え方の修得を目指したワークショップを実施することができた。

	内 容	講師（県内・県外）	期 日	参加人数
1	琉球漆器 沈金を楽しもう	●木とうるし工房 ぬりトン 森田哲也・森田敦子	4月17日（土）	10名
2	漆喰シーサーに挑戦！	●沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合 山城富暎・大城幸祐（現代の名工） 城間盛行・田端 忠・神里善則	11月6日（土） 11月7日（日）	14名
3	沖縄の植物（クロトン）で 押し花アートを楽しもう！	●ふしぎな花倶楽部沖縄ガイア押花会 伊是名教子・中島トモ子・眞部迪子	11月20日（土）	6名
4	干支紅型でお正月仕度(寅年)	●城紅型染工房 山城信吾・吉濱 愛	12月18日（土）	15名
5	不思議な金属「錫」で 豆皿づくり	●金細工まつ 上原俊展	2月19日（土） ↓延期 4月16日（土）	一 名



●琉球漆器 沈金を楽しもう

OKINAWA アートワークショップ 2021 ②



●漆喰シーサーに挑戦！



●沖縄の植物（クロトン）で押し花アートを楽しもう！

『OKINAWA』 OkiMu
アートワークショップ 2021

11/6 (土) - 7 (日)

漆喰シーサーに挑戦!
職人が教えてくれる本格的なシーサー作り
今年も前編城の真でつづけてみよう!

講師 山城富画さん・大城幸祐さん
(現代の名工・賞状表彰受賞)
沖縄県琉球赤瓦漆喰施工
協同組合のみなさん

定員 15名

時間 10:00～15:00(9:30開場) ※1:00分 特別体験
対象 小学5年生～一般
会場 県民アトリエ、こどもアトリエ
参加費 2,200円 ※お菓子 300円 軽食500円 ※ 15分以内
工期 1日目 (シーサー作り)
2日目 (色付け)

※参加費は参加費別添付の申込書にていただく(世帯で参加の場合は参加費別添付の申込書に受付します。)

※申込方法※
10/6 (水) より電話にて受付 (定員に達し次第、受付終了)
tel:098-941-8200 (担当/保久村)
※参加費には会場内でもお楽しみいただけます。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の上限を設けています。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします！
- 会場内でのマスク着用を徹底していただきます。
- 会場内での手洗いを徹底していただきます。
- 会場内での咳やくしゃみ、発熱、体調不良の発生を防止いたします。
- 会場内での飲食、飲酒、喫煙を禁止いたします。
- 会場内での立ち入り禁止区域を設けています。
- 会場内での立ち入り禁止区域を設けています。

※お問い合わせ先※
OkiMu 事務局 098-941-8200 (担当/保久村)

『OKINAWA』 OkiMu
アートワークショップ 2021

**11/20 沖縄の植物(クロトン)で
(土) 押し花アートを楽しもう!**
カラフルなクロトンやきれいな花びらを使って押し花アートを体験しよう!

講師 伊是名教子さん
中島トモ子さん
眞部通子さん
(押し花の達人 沖縄のアイアリスト)

定員 15名

時間 9:30～12:30 (9:15開場)
対象 小学1年生～一般
会場 県民アトリエ、こどもアトリエ
参加費 2,500円 (押し花専用額+材料)
※お菓子 300円 軽食500円 ※ 15分以内

※申込方法※
8/18 (水) より電話にて受付 (定員に達し次第、受付終了)
tel:098-941-8200 (担当/保久村)
※参加費には会場内でもお楽しみいただけます。
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の上限を設けています。

※お問い合わせ先※
OkiMu 事務局 098-941-8200 (担当/保久村)

OKINAWA アートワークショップ 2021 ③



●沖縄の植物（クロトン）で押し花アートを楽しもう！



●干支紅型でお正月仕度(寅年)

12/18(土) 『OKINAWA』 OkīMū
アートワークショップ 2021

干支紅型でお正月仕度

講師 山城信吾さん
吉濱 愛さん

（紅型型紙）家でできるお正月飾りづくり

来年の干支（寅）（トラ）の豪華な紅型
ご手紙やシタマシを添えるなど
自分で作ったカラフルな飾り紙で
楽しいお正月を建てるよ！！

定員 15名

時 間 10:00～12:00(9:30開場)
対 象 5才～一歳（未就学児は保護者の同伴）
会 場 浜民アトリエ・こどもアトリエ
参加費 3,500円（タペストリー）
※タペストリー一枚の料2本と送料は含まれません

※申込方法※ 11/18（水）より電話にて受付（定員に達し次第、受付終了）
tel:098-941-8200（担当/保久村）

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止または一部変更の可能性がございます。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします！
・検温や体調不良の報告、発熱や咳などの症状がみられる場合はご参加できません。
・マスクの着用、手指の消毒、換気設備の稼働などにご協力をお願いします。
・ご参加の際は必ずマスクの着用をお願いします。
・ご参加の際は必ず検温をお願いします。
・ご参加の際は必ず検温をお願いします。
・ご参加の際は必ず検温をお願いします。

『OKINAWA』 OkīMū
アートワークショップ 2021

不思議な金属『錫』で豆皿づくり

2022
2/19(土)

講師 上原俊展さん
（中絶）

定員 12名

時 間 10:00～12:00(9:30開場)
対 象 小学3年生～一歳
会 場 浜民アトリエ・こどもアトリエ
参加費 2,500円

※申込方法※ 1/19（水）より電話にて受付（定員に達し次第、受付終了）
tel:098-941-8200（担当/保久村）

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止または一部変更の可能性がございます。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします！
・検温や体調不良の報告、発熱や咳などの症状がみられる場合はご参加できません。
・マスクの着用、手指の消毒、換気設備の稼働などにご協力をお願いします。
・ご参加の際は必ずマスクの着用をお願いします。
・ご参加の際は必ず検温をお願いします。
・ご参加の際は必ず検温をお願いします。

※「錫」2/19 → 4/16に延期

こどもフェスタ秋①

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタは、未就学児から中学生まで幅広い層の参加があり、各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的としている。今年度は7月25・26・27日に予定していたが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、少し落ち着いた秋に「こどもフェスタ秋」として、予定していた内容を実施することができた。

※ 会場：県民アトリエ、こどもアトリエ

日程	午前	午後
	9:30~12:00	13:30~15:30
10/16 (土)	<p>●「筆づくり×色あそび」</p> <p>① 内容：タコノキの実や琉球松の葉を使って筆を作り、墨や絵具で掛け軸を制作</p> <p>② 講師：屋宜久美子 (confetti project) 大中原千陽 (confetti project)</p> <p>③ 対象：4才から中学校3年</p>	<p>●「雨の日もルンルン！世界にひとつだけのumbrellaをつくろう！」</p> <p>① 内容：透明なビニール傘に絵を描き、オリジナルの傘を制作</p> <p>② 講師：玉城早苗 (教育普及担当) 保久村智恵 (教育普及担当)</p> <p>③ 対象：小学校1年から小学校6年</p>
	9:30~12:30	13:30~15:30
10/17 (日)	<p>●「ハリガネで好きな形を作ってみよう！」</p> <p>① 内容：ハリガネの曲げ方、留め方など基本を学び、立体作品やオーナメントなど、自由に制作</p> <p>② 講師：doodlecraft</p> <p>③ 対象：小学校4年から中学校3年</p>	<p>●「家族や大切な人を守る！疫病よけのお札をつくろう！」</p> <p>① 内容：オリジナルの守り神を考え、願い事を書き添えた本格的なお札を制作</p> <p>② 講師：玉城早苗 (教育普及担当) 保久村智恵 (教育普及担当)</p> <p>③ 対象：未就学児から中学校3年</p>



こどもフェスタ秋②



● 「筆づくり×色あそび」



● 「雨の日もルンルン！世界にひとつだけの umbrella をつくろう！」

こどもフェスタ秋③



● 「ハリガネで好きな形を作ってみよう！」



● 「家族や大切な人を守る！疫病よけのお札をつくろう！」

アートコンクール①

2017年より、児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指している。今年度は、テーマを「沖縄」として募集したところ、1,638点の素晴らしい作品が集まった。嬉しいことに年々参加者が増え、作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞し、11月3日に表彰式を挙行了。当日は、入賞者のご家族に列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

第5回アートコンクール 入賞者

(展示期間 2021/11/2～11/21)

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部
最優秀賞	◎當眞 杏奈 読谷村立古堅小 6年	◎上原 美春 宮古島立西辺中 2年	◎勝馬 瑠衣 県立首里高 3年	◎久高 旺輝 県立名護特別支援学校高等部 1年
優秀賞	◎花城 くるみ 南城市立船越小 6年	◎盛口 海 NPO 法人珊瑚舎スコール 中学校部 3年	◎長谷川 梨子 県立首里高 3年	◎徳元 柚希 豊見城市立ゆたか小特別支援学級 2年
	◎仲宗根 梨乃 うま市立伊波小 1年	◎山城 大空 国頭村立国頭中 1年	◎中川 かな奈 県立真和志高 3年	◎生駒 志温 県立大平特別支援学校高等部 3年
優良賞	◎与座 翼 宮古島市立伊良部島小 6年	◎平良 笑花 那覇市立首里中 2年	◎山下 蘭 県立知念高 1年	◎名城 美莉愛 豊見城市立ゆたか小特別支援学級 1年
	◎池原 杏璃愛 豊見城市立ゆたか小 2年	◎比屋根 佳奈 那覇市立首里中 2年	◎黄金 蒼生 県立首里高 3年	◎比嘉 琉翔 豊見城市立ゆたか小特別支援学級 2年
	◎白石 明日美 私立カトリック学園 海星小 2年	◎金城 花音 浦添市立浦西中 3年	◎宮城 響 県立真和志高 3年	◎喜屋武 祥人 県立はなさき支援学校高等部 1年
団体賞	南城市立船越小学校	浦添市立浦西中学校	沖縄県立真和志高等学校	沖縄県立はなさき支援学校
	豊見城市立ゆたか小学校	那覇市立石田中学校	沖縄県立首里高等学校	豊見城市立ゆたか小学校
	伊江村立伊江小学校	沖縄市立美里中学校	沖縄県立知念高等学校	
	那覇市立仲井真小学校	嘉手納町立嘉手納中学校		
		国頭村立国頭中学校		



●表彰式の様子



●展示の様子

アートコンクール② (審査講評)

【小学校の部】(応募数 287 点)

今回のテーマは、「沖縄」ということで、様々な作品がありました。例えば、沖縄の青い空や青い海、大事にしたい生き物たちやサンゴ、そして色鮮やかな赤や朱色の首里城、かわいらしいシーサー、沖縄の特産品や伝統芸能などがあり、皆さんの作品から改めて沖縄の良さを感じました。表現方法も様々で、クレパスや絵の具、色鉛筆などを使い、沖縄のきれいな色を出そうと工夫して取り組んでいるのが伝わりました。

【中学校の部】(応募数 894 点)

沖縄の青い海、ジンベエザメをはじめとする色とりどりの魚たちなど自然を取り上げた作品、琉装のひとや三線、沖縄の伝統料理など文化を表したものの、そしてゴミの投棄など沖縄の抱える問題に目を向けたり、コロナ禍で苦しむ今の心情を捉えたものなど、テーマの「沖縄」を中学生らしく様々な視点で見つめ、多様な世界観で表現されており、大変見応えがありました。水彩絵の具をはじめ、色鉛筆やカラーペン、CGで描かれたものなど色々な画材にも挑戦しており、今後も自分らしく楽しく表現することを続けてもらいたい。

【高校の部】(応募数 384 点)

今回のテーマ「沖縄」を観光や名所だけではなく、日常や文化までを視野に描かれた作品も多く、高校生の多様性を感じることができる内容でした。また、明るい配色や構図など、「沖縄」に対して好感をもって描いている作品が多く、作者の思いを感じることができました。今後も是非、描くことを楽しんで意欲的に頑張ってください。

【特別支援の部】(応募数 73 点)

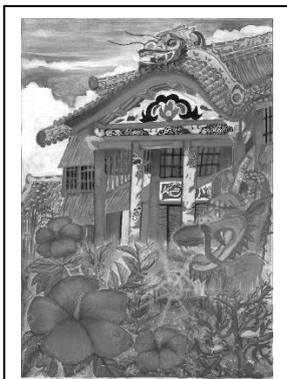
個々の児童生徒の持ち味を生かしながら、それぞれがイメージした「沖縄」をいきいきと表現できていたと思います。どの作品からも作者が楽しみながら制作した印象を受けました。これからも楽しい気持ちを持ちながら、次回のテーマにチャレンジしてもらいたいです。

最優秀作品

最優秀作品



●読谷村立古堅小 6年 当真杏奈



●宮古島立西辺中 2年 上原美春



●県立首里高 3年 勝馬瑠衣



●県立名護特別支援学校高等部
1年 久高旺輝

審査委員

○崎濱陽子 (中城村立中城小学校 校長)

○島筒 格 (豊見城市立伊良波中学校 教諭)

○長内 聡 (沖縄県立那覇工業高等学校 教諭)

○赤嶺憲弘 (沖縄県立大平特別支援学校 教諭)

おきみゅーシネマラボ

所蔵作品や所蔵作家など、当館ゆかりの映像資料を館内で上映し、その上映中にトークを行う美術館ならではの映像鑑賞体験を共有する企画。館内映像資料の活用とともに、まだ当館に訪れたことのない新たな来館者を呼び込む機会とすることを目的として今年度で4回目。また沖縄における映像文化のオーラルヒストリーを記録、継承する機会とした。

内容	講師	上映作品
映画上映及び、 トークイベント	<ul style="list-style-type: none"> ●波照間永吉（名桜大学大学院 特任教授） ●真喜屋 力（沖縄アーカイブ研究所） ●亀海史明（当館学芸員） 	●吉屋チルー物語（日本語字幕付き）

※スペシャルゲストとして、当日来場されていた知念ウシ 氏（ウチナーグチ翻訳）にもご登壇頂いた。



●トークイベントの様子

おきみゅーシネマラボ



2022. 2.20日

14:00~17:00
(開場 13:30)

講師 波照間 永吉 氏
真喜屋 力 氏
亀海 史明 氏

会場 沖縄県立博物館 美術館
3F 講堂 (100名)

受付 受付申込
098-941-8200

上映作品 『吉屋チルー物語』 日本語字幕版
ウチナーグチ字幕 知念ウシ
ウチナーグチ原典 高橋博典
字幕制作 高橋博典
制作協力 高橋博典
制作 株式会社スナモリ映画

※お申し込みはこちらへ

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします。

【観覧料】 無料 経路「島上津原線」
【休館日】 月曜日（祭日の場合は翌日休館）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします！

※会場内や観覧席内での飲食はご遠慮ください。マスクの着用、手洗いや手指消毒の徹底をお願いします。

※ご来館の際は体温測定を行います。

※新型コロナウイルス感染症予防（感染防止）を徹底するために、観覧席は必ずしも満席とは限りません。

参加者の声（アンケート）

- ・トークセッションを聞いて、なるほどと思うことがたくさんあったので、改めて映像を見てみたいと思った。
- ・ウチナーグチのセリフと日本語訳が何の違和感もなく流れたのは、制作を担当された方々のご苦勞のたまものですね。
- ・映画をより深掘りできて良いと思う。
- ・以前は言葉の壁で内容について行くのが精一杯だったが、今回は身なりや衣裳、風景など細部に関心を向けることが出来た。童歌も訳していただき良かったです。
- ・20年前に見た時よりも、字幕のおかげで理解が深まった。
- ・翻訳の大変さを知った。単なる言葉の言い直しではなく、背景や心情などを考える事も重要だと知った。
- ・上映だけで完結する場合と、トークを組み合わせた場合では、感動の深さや受け取る幅に雲泥の差があります。トークの内容が素晴らしく、真実の芯に迫る深読みが出来た。
- ・人の情けが伝わる名作です。
- ・パネラーの皆さんが、それぞれの立場で映画のポイントを解説していただいたので、大変参考になりました。

美術館コレクション展

(会期：令和2年10月20日(火)～令和3年6月27日(日))

美術館コレクション展では、美術館が収蔵している作品の中から、テーマに沿った作品を選び、沖縄の美術を様々な切り口で紹介している。今期は、戦後沖縄の写真界を牽引した山田 實の作品を紹介する「沖縄美術の流れ(写真)」、子どもに焦点をあてた「子どもの情景」、近現代の沖縄美術を総合的に紹介する「沖縄美術の流れ」を開催した。

【展示内容】

●山田實展

山田 實(1918-2017)は、沖縄県那覇市出身の写真家で、沖縄に住む子どもたちを数多く撮影している。召集を受けて戦地に赴き、戦後抑留を経て生還した山田は、戦禍による荒廃から復興する沖縄を巡り、苦境にありながらも健気に生きる子どもたちを撮り続けた。今回のコレクション展では、当館所蔵の山田 實作品の中から〈子どもたちのオキナワ〉シリーズを紹介した。(亀海史明)



●子どもの情景

本展は、美術館コレクションの中から「子ども」にスポットをあて、絵画、写真、彫刻、版画など30点の作品が並び、10名の沖縄の作家と4名の県外の作家、そして4名の海外の作家を紹介するものである。「子どもから見た大人の世界」と「大人から見た子どもの世界」の2つに分け、アートを通して感じられる社会のありようを紹介した。(豊見山 愛)



●沖縄美術の流れ

本展は、当美術館が調査し収集したコレクションの中から選んだ30点から50点程の作品を紹介するものである。

沖縄にはその風土や歴史から育まれた独自の文化があり、美術もまた、時代や置かれた立場、状況に大きく影響されながら培われてきた。本展では、沖縄の近現代美術の流れを総合的に紹介する。なかでも、戦後沖縄美術を牽引したひとりである安谷屋正義(あだにやまさよし、1921-1967)に焦点をあて、その作品を紹介した。(富原圭子)



沖縄美術の流れ (写真) 石川文洋とベトナム戦争

(会期：令和3年7月10日(土)～令和3年12月5日(日))

※会期を令和4年1月23日(日)まで延長

石川文洋(1938-)は、沖縄生まれの写真家。1964年、毎日映画社を辞めて「無銭旅行」をしていた石川が香港に滞在していた頃、「トンキン湾事件」が発生、これをきっかけにアメリカはベトナム戦争への本格的な介入を深める。翌年から石川はフリーカメラマンとして米軍、南ベトナム政府軍に同行し、ベトナム戦争を撮りはじめ、帰国後も同地を撮り続けている。本展では、石川がベトナムに滞在していた頃に撮影された写真を中心に紹介した。(亀海史明)



□キュレータートーク

【日 時】 令和3年10月23日(土)

【会 場】 美術館講座室

【講 師】 亀海史明

【参加者】 13人

【内 容】 「日曜スペシャル 海を渡った沖縄人たちの戦争
写真家・石川文洋の記録」

ギャラクシー賞(第38回奨励賞)受賞番組

(NHK、2000年12月10日放送、60分)を上映。

【日 時】 令和3年11月6日(土)

【会 場】 美術館講座室

【講 師】 亀海史明

【参加者】 15人

【内 容】 ベトナム戦争は数多くの写真家が現地へ行き、軍隊に同行して写真を撮っていた。同時代の写真家の作品を見ながら、石川文洋氏の写真の魅力を紹介した。

【日 時】 令和3年11月20日(土)

【会 場】 博物館講座室

【講 師】 亀海史明

【参加者】 47人

【内 容】 「日曜スペシャル 海を渡った沖縄人たちの戦争
写真家・石川文洋の記録」

ギャラクシー賞(第38回奨励賞)受賞番組

(NHK、2000年12月10日放送、60分)を上映後、
講話を行った。



●講話の様子



●展示解説の様子

川平恵造展

(会期：令和3年7月10日(土)～令和3年12月5日(日))

※会期を令和4年1月23日(日)まで延長

2021年7月10日から美術館コレクションギャラリー2で、沖縄をテーマに描き続ける郷土の画家、川平恵造氏の絵画を紹介した。1976年から2013年までに制作された21点の作品を、時代性をテーマとする細密描写の《Now…》シリーズと、抽象表現を極めた《夏》シリーズに分け、さらに2020年度の新収蔵作品17点も併せた、当館では初めての個展である。

大学を卒業後、彫刻から絵画へと表現方法を変えることとなった川平氏は、「沖展」や「新象展」を中心に、県内外で発表し続けている。1970年代からは、沖縄の社会の変化をシュルレアリスティックに表現し、叙情的な作品へと変化していく。さらに1980年代後半からは本格的に抽象絵画を追求している。本展覧会は、その変遷を一望できる機会となった。(豊見山 愛)



□ギャラリートーク

【日 時】 令和3年9月3日(金)

【会 場】 2階展示室・ホワイエ

【講 師】 川平恵造×豊見山 愛

【内 容】 ホームページでの公開と、1階エントランスでの映像上映を目的に展示会場でインタビュー映像を撮影。絵を描き始めた動機と二つのシリーズ《Now》と《夏》についてお聞きした。



●インタビュー映像撮影の様子

REFLECTIONS 一時代を見る眼

(会期：令和4年1月29日(土)～令和4年6月26日(日))

本展覧会では「戦場（沖縄戦とベトナム戦争）」「国家」「越境」のテーマに分け、当館がコレクションする沖縄、日本、アジアの現代美術作品から、それぞれの置かれた「時代」を見つめた作品、約50点を紹介した（展示替え含む）。生きるうえで、社会や時代と無関係でいられる人はいないのであろう。作家もまた、自らが生きる時代をとらえ、批評し、問いかけるような作品を生み出している。新型コロナに関することも、時が過ぎると経験していない世代が多くなり、いずれ歴史化されていくことだろう。個人的な生活がパンデミックという世界的な問題につながっている今こそ、「時代」を見つめた作品から何か感じられることがあるかもしれない。（大城さゆり）



□ギャラリートーク

- 【日 時】 令和4年1月29日(土)
- 【会 場】 美術館 ホワイエ
- 【講 師】 栗国久直×大城さゆり
- 【参加者】 20人
- 【内 容】 展示会場で作品について解説。



●栗国久直 氏



□関連催事「福地リコ作品上映会」

- 【日 時】 令和4年2月11日(金)
- 【会 場】 博物館講座室
- 【講 師】 福地リコ×大城さゆり
- 【参加者】 53人
- 【内 容】 《クリア》《BOUNDARIES》の上映後作品についてトークを実施。



●福地リコ 氏

□キュレータートーク

- 【日 時】 令和4年3月5日(土)
- 【会 場】 美術館講座室
- 【講 師】 大城さゆり
- 【参加者】 25人
- 【内 容】 展覧会の内容や示作品について解説。



●キュレータートーク

沖縄美術の流れ (前期) (後期)

(会期：前期◆令和3年7月10日(土)～令和4年1月23日(日)
後期◆令和4年1月29日(土)～令和4年6月26日(日))

【前期】

当館のコレクションのなかから約50点の作品を紹介し、戦前・戦後の沖縄美術の流れをたどる。沖縄には、その風土や歴史から育まれた独自の文化があり、美術も時代や置かれた立場、状況に影響されながら培われてきた。本展では海外で活躍する沖縄ゆかりのアーティストの作品も併せて紹介した。

前期は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言により閉館期間が生じたため、会期末を1月へ変更した。(玉城・梶原)

【展示内容】

- 第1章 戦前の沖縄美術 -1945
- 第2章 戦後復興期の美術 1945-1972
- 第3章 復帰からアイデンティティーの希求 1972-
- 第4章 沖縄系移民のアーティスト
- 第5章 沖縄と現代美術 1995



【後期】

県全体が亜熱帯気候の地において、様々な風土や歴史に翻弄されながら独自の文化を築いてきた沖縄。「沖縄美術の流れ」では、戦前、戦後の美術作品を辿りながら、その変遷を感じることができる。美術家達が、その時代をどのように捉え表現したか。県内外、海外で活躍する沖縄出身の美術家の作品や、沖縄美術に影響を与えた県外出身作家の作品も併せて紹介する。(玉城・梶原)

【展示内容】(後期)

- 第1章 戦前の沖縄美術 -1945
- 第2章 戦後復興期の沖縄美術 1945-1972
- 第3章 復帰以降の沖縄美術 1972-
- 第4章 沖縄系移民や県外・海外で活躍する沖縄のアーティスト
県外出身アーティスト



石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。

(会期：令和3年3月5日(土)～令和3年6月6日(日))

※会期を6月27日(日)まで延長するも、5月23日(日)から休館

海外でも広く紹介され、いまなお精力的な制作活動が続ける写真家・石川真生(1953-)。その写真には、立場に囚われ矛盾や葛藤を抱えながらも、個人としてどう生きるべきかを問いかける人々の生そのものの力強さが写されている。本展では、作家所蔵の作品を中心に、初期から最新作までをシリーズごとに紹介した。(亀海史明)

□ギャラリートーク

出品作家の石川真生氏をお招きし、会場にて作品の制作に関するエピソードを紹介。昨年度に実施したものを合わせて、計6回実施(今年度は4回実施)。ただし、6月27日に実施した6回目については、「エンディングトーク」として、コロナ禍による休館期間中にオンライン配信にて実施した。

【日 時】 令和3年4月17日(土)、5月8日(土)、
22日(土)、6月27日(日) 14:00～15:00
※6月27日のみ 17:00～18:00

【会 場】 企画ギャラリー2

【講 師】 石川真生(展覧会出品作家)

【参加者】 169人(4/17・5/8・22の合計)

□シンポジウム

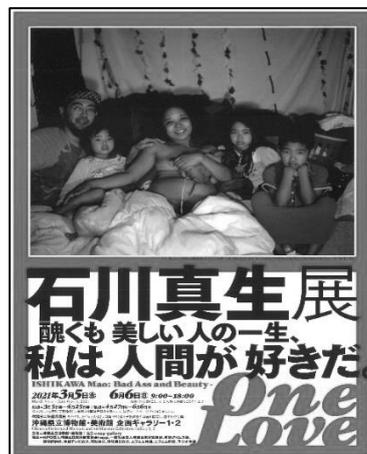
石川真生氏にゆかりのある講師の方をお招きし、それぞれの現場から見える真生さんの写真についてお話しいただく機会とした。海外でも広く紹介されている真生さんの写真の魅力を、様々なテーマを通して紹介した。

【日 時】 令和3年5月9日(日) 14:00～17:00

【会 場】 講堂

【講 師】 天野太郎(フリーキュレーター)、仲里 効(批評家)、
グレッグ・ドボルザーク(早稲田大学教授)、
友利真由美(石川真生世話役)

【参加者】 80人





●ギャラリートーク



●エンディングトーク



●シンポジウム

琉球の横顔―描かれた「私」からの出発

(会期：令和3年11月3日(水)～令和4年1月16日(日))

この企画展は、沖縄に生まれ、あるいは沖縄にゆかりのある16人の作家の作品を紹介し、時代の諸相に注目し、社会的に弱者となりやすい存在を、アートを通して確認する。社会的なテーマを序章として、久志美紗子の小説と池原清子の南画2点を紹介した。

次に戦後復興のなかで取り残されやすい女性の表現を1章「分断」とし、沖縄系ハワイ移民を家系に持つローラ・キナ、エミリー・ハナコ・モモハラの作品を紹介した。続いて、戦後沖縄社会で発表を続ける久場とよ、中島イソ子、上原よし、砂川喜代、西村立子、喜屋武千恵、仁添まりな、山川さやかの視点を通して、多面的な沖縄社会のありようを見た。2章「再生」では寺田健人、石垣克子、遠藤 薫、泉川のはな、胡宮ゆきなのアートを通して、家族や風景、多様な表現の展開と自分らしさの実現について考えた。(豊見山 愛)



□オンライン対談

	月日(曜)	講師氏名
1	11月28日(日)	遠藤 薫 (アーティスト) × 沢山 遼 (美術批評家)
2	11月28日(日)	石垣克子 (アーティスト) × 土屋誠一 (美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授)
3	12月5日(日)	仁添まりな (アーティスト) × 平川信幸 (沖縄県教育庁文化財課主任専門員)
4	12月11日(土)	喜屋武千恵 (アーティスト) × 賀数仁然 (琉球歴史文化研究所 クボウグランデ)
5	12月19日(日)	寺田健人 (アーティスト) × 高田冬彦 (アーティスト)
6	12月19日(日)	胡宮ゆきな (アーティスト) × 居原田 遥 (インディペンデント・キュレーター)
7	12月19日(日)	山川さやか (アーティスト) × 豊見山 愛 (展覧会担当)
8	12月19日(日)	泉川のはな (アーティスト) × 大城さゆり (展覧会サブ担当)



●遠藤 薫 氏 × 沢山 遼 氏



●仁添まりな 氏 × 平川信幸 氏

令和3年度美術館事業統計報告

教育普及事業

※敬称略

1. シンポジウム・講演会・上映会

回	月日	曜日	シンポジウム・講演会	参加人数
1	5月9日	日	「石川真生」関連催事 シンポジウム 講師：天野太郎（キュレーター）、仲里 効（映像批評家）、 グレッグ・ドボルザーク（早稲田大学教授）、 友利真由美（石川真生世話役） 進行：亀海史明（展覧会担当学芸員） ※YouTube ライブ視聴数 284 件（その後、展覧会会期中公開）	80
2	2月20日	日	おきみゅーシネマラボ 講師：波照間永吉（名桜大学大学院特任教授・ウチナーグチ監修） 真喜屋 力（沖縄アーカイブ研究所） 進行：亀海史明（当館学芸員） ※スペシャルゲストとして、当日来場されていた 知念ウシ 氏（ウチナーグチ翻訳）にもご登壇頂いた。	119

2. アーティスト（ギャラリー）トーク（アーティスト又は研究者による作品解説）

回	月日	曜日	展覧会名	参加人数
1	4月17日	土	「石川真生」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家）	55
2	5月8日	土	「石川真生」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家）	44
3	5月22日	土	「石川真生」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家） ※YouTube ライブ視聴数 325 件（その後、展覧会会期中公開）	70
4	6月6日	日	「石川真生」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	—
5	6月27日	日	「石川真生」関連催事 エンディングトーク 講師：石川真生（写真家）、伊波リンダ（写真家） ※緊急事態宣言が発令され臨時休館中のため、YouTube でのライブ配信	視聴数 84
6	9月3日	金	コレクションギャラリー2「川平恵造展」関連催事 ギャラリートーク 講師：川平恵造（画家）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため撮影したインタビュー映像を館内と当館 Web サイトで公開	—
7	11月28日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：遠藤 薫（アーティスト）、沢山 遼（美術批評家）	視聴数 524
7	11月28日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：石垣克子（アーティスト）、土屋誠一（美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授）	視聴数 345
9	12月5日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：仁添まりな（アーティスト）、平川信幸（沖縄県教育庁文化財課主任専門員）	視聴数 414
10	12月11日	土	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：喜屋武千恵（アーティスト）、賀数仁然（琉球歴史文化研究所 クボウグランデ）	視聴数 333
11	12月19日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：寺田健人（アーティスト）、高田冬彦（アーティスト）	視聴数 282
12	12月19日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：胡宮ゆきな（アーティスト）、居原田 遥（インディペンデント・キュレーター）	視聴数 166
13	12月19日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：山川さやか（アーティスト）、豊見山 愛（展覧会担当）	視聴数 199
14	12月19日	日	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：泉川のはな（アーティスト）、大城さゆり（展覧会サブ担当）	視聴数 181
15	1月29日	土	「REFLECTIONS-時代を見る眼-」関連催事 アーティストトーク 講師：栗国久直（アーティスト）	20
16	2月11日	金	「REFLECTIONS-時代を見る眼-」関連催事 福地リコ上映会 講師：福地リコ（映画監督）	53

※「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談の視聴数は2月末までの数です。

3. キュレータートーク・学芸員講座（美術館学芸員による研究発表および展覧会解説）

回	月日	曜日	展示会名	担当	参加人数
1	6月5日	土	美術館学芸員講座 「美術品の保存修復について ～保存修復の現場から～」	梶原正史	コロナ拡大防止のため中止
2	10月23日	土	「石川文洋とベトナム戦争」関連催事（上映会） 「日曜スペシャル 海を渡った沖縄人たちの戦争 写真家・石川文洋」（2000年 NHK）	亀海史明	13
3	11月6日	土	「石川文洋とベトナム戦争」キュレータートーク	亀海史明	15
4	11月20日	土	「石川文洋とベトナム戦争」関連催事（上映会+解説） 「日曜スペシャル 海を渡った沖縄人たちの戦争 写真家・石川文洋」（2000年 NHK）	亀海史明	47
5	1月8日	土	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」関連催事 キュレータートーク	豊見山 愛	16
6	3月5日	土	「REFLECTIONS-時代を見る眼-」関連催事 学芸員講座+キュレータートーク	大城さゆり	25
7	3月12日	土	美術館学芸員講座 「展覧会とアーカイブ」-美術館の現場から-	亀海史明	25

4. 美術館ミュージアムツアー

- ①内 容：普段見ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを学芸員が案内する
- ②定 員：12名
- ③時 間：10:30～12:00
- ④場 所：トラックヤード、一時保管庫、収蔵庫、工作室、修復室、展示室作品鑑賞

回	月日	曜日	内 容	担 当	参加人数
1	5月22日	土	調べる（調査研究）	豊見山 愛	5
2	7月24日	土	みせる（展示公開）	大城さゆり	コロナ拡大防止のため中止
3	9月18日	土	集める（資料収集）	亀海史明	コロナ拡大防止のため中止
4	11月21日	日	まもる（保存・修復）	梶原正史	12
5	1月22日	土	伝える（教育普及）	玉城早苗	5

5. ボランティア勉強会

（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00） 対象：登録ボランティア

回	月日	曜日	講義内容	参加人数
1	4月21日	水	職員紹介・活動計画と事務手続き等説明会、展示解説	9
2	11月24日	水	展示解説、ワークショップ：美術館とは何かを考える	9
3	2月16日	水	展示解説	7
4	3月9日	水	バックヤードツアー	8

6. アートコンクール「テーマ 沖縄」……………応募総数 1,638 作品

- ・内訳 小学校の部：287点 中学校の部：894点 高校の部：384点 特別支援の部：73点
- ・入賞作品展（1階エントランス） 11月2日（火）～21日（日）

7. ワークショップ

(1) OKINAWA アートワークショップ「琉球漆器 沈金を楽しもう」……………10人参加

- ①日 時：令和3年4月17日(土) 9:30～12:00
- ②内 容：琉球漆器の歴史や制作工程、道具など様々な角度から漆器について学び、沈金制作に挑戦
- ③講 師：森田哲也、森田敦子（工房ぬりトン）
- ④対 象：小学校4年から一般
- ⑤会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ

(2) こどもフェスタ秋①「筆づくり×色あそび」……………11人参加

- ①日 時：令和3年10月16日（土）9:30～12:00
- ②内 容：タコノキの実や琉球松の葉を使って筆を作り、墨や絵具で掛け軸を制作
- ③講 師：大中原千陽、屋宜久美子（confetti project）
- ④対 象：4才から中学校3年
- ⑤会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ

- (3) こどもフェスタ秋②「雨の日もルンルン！世界にひとつだけの umbrella をつくろう！」……………8人参加
 ① 日 時：令和3年10月16日（土）13:30～15:30
 ② 内 容：透明なビニール傘に絵を描き、オリジナルの雨傘を制作
 ③ 講 師：玉城早苗（教育普及担当）、保久村智恵（教育普及担当）
 ④ 対 象：小学校1年から6年
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (4) こどもフェスタ秋③「ハリガネで好きな形を作ってみよう！」……………9人参加
 ① 日 時：令和3年10月17日（日）9:30～12:30
 ② 内 容：ハリガネの曲げ方、留め方などの基本を学び、立体作品やオーナメントなど、自由に制作
 ③ 講 師：doodlecraft
 ④ 対 象：小学校4年から中学校3年
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (5) こどもフェスタ秋④「家族や大切な人を守る！疫病よけのお札をつくろう！」……………8人参加
 ① 日 時：令和3年10月17日（日）13:30～15:30
 ② 内 容：オリジナルの守り神を考え、願い事を書き添えた本格的なお札を制作
 ③ 講 師：玉城早苗（教育普及担当）、保久村智恵（教育普及担当）
 ④ 対 象：未就学児から中学校3年
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (6) OKINAWA アートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦！」……………14人参加
 ① 日 時：令和3年11月6日（土）、7（日）10:00～15:00
 ② 内 容：首里城の破損瓦を使い、職人の手ほどきを受けながら本格的な漆喰シーサーを制作
 ③ 講 師：山城富画（現代の名工）、大城幸祐（現代の名工）
 城間盛行、田端 忠、神里善則（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）
 ④ 対 象：小学校5年から一般
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (7) OKINAWA アートワークショップ「沖縄の植物（クロトン）を使って押し花アートを楽しもう！」・6人参加
 ① 日 時：令和3年11月20日（土）9:30～12:30
 ② 内 容：身近にあるクロトンやブーゲンビリアなど、沖縄の植物で押し花の作品を制作
 ③ 講 師：伊是名教子、中島トモ子、眞部迪子（ふしぎな花倶楽部 沖縄ガイヤ押花会）
 ④ 対 象：小学校1年から一般
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (8) OKINAWA アートワークショップ「干支紅型でお正月支度」……………15人参加
 ① 日 時：令和3年12月18日（土）10:00～12:00
 ② 内 容：紅型の歴史や技法を学びながら、2022年の干支「寅」の紅型づくりを楽しむ
 ③ 講 師：吉濱 愛、山城信吾（城紅型染工房 ぐすくびんがたそめこうぼう）
 ④ 対 象：5才から一般
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
- (9) OKINAWA アートワークショップ「不思議な金属『錫』で豆皿づくり」……………一人参加
 ① 日 時：令和4年1月16日（日）①10:00～12:00
 ② 内 容：琉球王朝時代から重宝されていた錫を使って手のひらサイズの豆皿作りに挑戦
 ③ 講 師：上原俊展（金細工まつ）
 ④ 対 象：小学校3年から一般
 ⑤ 会 場：県民アトリエ、こどもアトリエ
 ※新型コロナウイルスの影響で次年度へ延期

8. 博物館・美術館連携事業

慰霊の日特別企画 「平和ってなに??」美術館えほん読み聞かせ・ミニ展示

日 時：令和3年6月15日（火）～6月27日（日）※新型コロナウイルスの影響で中止

9. 職場体験 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施校なし ……………一人対応
 キャリア教育の具体的理解として、生徒が実際に現場で働く人と接しながら職業や仕事を体験し、「働くこと」について学習する。当館では、館内施設の見学や接客、博物館・美術館の業務体験を行う。

- ① 対 象：県内中学校・高等学校
 ② 方 法：各学校からの依頼により実施
 ③ 場 所：コレクション展示室・バックヤード・美術館資料室、その他
 ④ 内 容：施設見学、美術館班資料整理、接客を含む各業務体験

10. 団体見学対応281 人参加
 (鑑賞ボランティアによる対話鑑賞・教育普及学芸員によるバックヤード・キャリアプログラム)

回	月日	曜日	学校名	見学場所	見学者数
1	11月30日	火	沖縄県立首里高等学校	美術館バックヤード	7
2	12月1日	水	南城市立玉城小学校	美術館コレクション展・博物館常設展	75
3	12月9日	木	渡嘉敷村立阿波連小学校	美術館コレクション展・美術館バックヤード	6
4	12月17日	金	沖縄県立浦添工業高等学校	美術館コレクション展・美術館企画展 美術館バックヤード	78
5	12月23日	木	那覇市立宇栄原小学校	美術館コレクション展・博物館常設展	115

11. 出前授業1 団体

*美術館収蔵作品ティーチャーズキット・アートカード・美術館マナー・キャリア教育

今年度は、那覇市牧志駅前ほしぞら公民館を拠点に、首里の歴史について勉強をされている「はまなす」の皆さんに出前授業を実施。

回	月日	曜日	
1	11月29日	月	「はまなす」の皆さん (那覇市牧志駅前ほしぞら公民館)

12. 研修対応
 学芸員実習

※今年度は新型コロナの影響により実習時期をずらし、一部内容を変更して期間を短縮し実施した。

① 期間：令和3年8月10日(火)～8月24日(火) (予定)

8月30日(月)～9月1日(水) (実施)：課題提出9/30〆切

② 参加者：10名(沖縄県立芸術大学)

③ 内容：保存保管環境、展示方法、絵画・彫刻・写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

		実習内容(午前)	実習内容(午後)
第1日	月	開講式、オリエンテーション、IPM	業務の考え方・博物館施設説明
第2日	火	美術館活動の概要及び施設・設備	常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究
第3日	水	共通課題研究、収集事業概要	資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ
第4日	木	共通課題研究、資料の分類	常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際
第5日	金	共通課題研究、常設展示の実際Ⅲ	調査研究概要、企画展の実際Ⅰ
第6日	月	共通課題研究、資料に関する情報処理	立体資料の取扱い実習(彫刻)
第7日	火	共通課題研究、平面資料の取扱い(油彩・水彩画)	平面資料の取扱い(版画)
第8日	水	共通課題研究、教育普及Ⅱ	平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ
第9日	木	共通課題研究、作品調査の方法	平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ
第10日	金	共通課題研究、平面資料の実習Ⅴ	実習のまとめ、閉講式

[さいごに]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人と他の何かが結びつく機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストや講師の方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆様方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。

この場を借りて、ご協力くださった多くの皆様に感謝申し上げますとともに、1日でも早い新型コロナウイルス感染症の終息と、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

令和3年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2022年3月31日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-941-8200 (代表)

教育普及担当
玉城早苗 (沖縄県立博物館・美術館)
保久村智恵 (一般財団法人 沖縄美ら島財団)